



住宅団地(南原地区)

風景です。さにあふれた村の街は、活気と新しさ。国道沿いの商店街は、活気と新しさにあふれた村の風景です。

このような家は、里山に近い美里や桑原に多く見られます。

一方、八幡平や南原には新しい住宅地が数多く見られます。南原

強い色調や人工的な色彩を避け、自然の色を強調した集落・家屋には素朴な美しさがあります。

中川村では、伝統的な造りの家屋も新しい住宅団地もよく目にします。昔ながらの家屋や集落景観は、色調面でも周囲の自然と調和・共生した造りになっているように感じます。

集落・家屋・街

土壁・白壁や黒い梁を使い、全体的にモノトーンでまとめた色合いは、周囲の緑や背後の山と調和したコントラストを見せています。

近景から

暮らしの音が聞こえる生活空間



国道沿いの街地(中央)



清楚な白い花が一面に咲いたりんご園(西ヶ原)

中景から

人の手が入った半自然の生産空間

里山

村内には、雑木林が茂る里山の様相を今も留めている山林が散在しています。民家や畑地の背後に雑木林が開け、その奥に森林が続く風景はとても重層的です。

春は山菜、秋はきのこ、燃料の薪や肥料にする腐葉土の採取と、かつて里山は、一年の時間を人の暮らしとともに刻んでいました。そんな名残が、風景を奥深いものにしていくのかもしれない。



樹園地・畑地

3月から5月にかけて、果樹の花が村を美しく染めていきます。花の競演の始まりは梅の開花から。桜の花が終わるころ、ピンク色の桃の花、白い梨の花、そして可憐なりんごの花が絨毯を敷いたように段丘を彩ります。これが高みから見物できるのも、段丘地形の利点なのです。

夏から秋は代わって色づいた果実の時期。柿やりんごが秋の日差しに照らされた様子は、中川らしい風景のひとつです。



秋の里山の風景(美里)

水田

水田は季節とともに色彩の変化を目で楽しむことができます。田植えを終えた水田は、水面上に周囲の景観を映し、夜はカエルの大合唱。夏は里をわたる風が伸びやかだった稲を揺らし、青い田に白い波をつくりまわす。赤とんぼが飛び交う秋の田んぼは黄金色に染まり、収穫の匂いがみなぎってきます。整備されたほ場の一方で、飯沼の棚田をはじめ、村では谷あいにはさしは畦畔の曲線美にあります。これを美しいと感じるのは、人の手と自然が溶け合い、人の身に合った半自然の風景だからなのでしょう。



葛島の水田地帯



集落景観(竹ノ上)